

横須賀市立市民病院 新西海岸通り

平成 26 年 (2014 年) 5 月 12 日 発行

第 13 号 春号

発行責任者 病院長 久保 章

編集 研修学術広報委員会

今号の内容 -Contents-

- リレーコラム
- 当院からのお知らせ
- 就任医師の挨拶
- 当院からのお知らせ



リレーコラム

<病院長>

久保 章 医師

数年前、5 月初旬の北海道を訪ねたことがありました。それまでは、桜前線の北上

という言葉は知っていましたが身をもって体験することはありませんでした。先日、たまたま横浜にある大岡川の川べりの桜を見ていた時に、そして桜吹雪を体と顔全体で受け止めながら“空を知らぬ雪”、“空に知られぬ雪”という形容とともに思い出しました。五稜郭公園と松前城の見事な桜と桜吹雪はこの形容がぴったりな情景でした。その 2~3 年後、強風の吹いた日に桜吹雪を浴びながら、当院は医療の質のさらなる深化と経営状態の改善を目指し経営形態を変更しました。

4 月から 5 月にかけてのこの時期、新入職員のみならず気分も新たにした職員の表情を見ていると、次のような和歌を思い出します。《岩ばしる 垂水の上の さわらびの 萌えいずる春に なりにけるかも》というものです。これは、冬の（勉強の、経営の、業務の）厳しい季節を耐えて、垂水は滝のことですが、滝の上で「芽をだしたばかりのわらび」=「さわらび」が種々の努力の末に、そして勉学や研修、会議等を通じて、能力や知恵が生き生きと萌え出でてくるように成長し、病院の未来を照らし出し、気がつけば春になり病院をさらに強化する礎になるというイメージです。

このように当院は、この 4 月で、公益社団法人地域医療振興協会による指定管理に移行して丁度 4 年が経過しました。それ以来、職員各自が自律性（オートノミー）を適切に発揮し経営状態も改善してきました。『われわれは、現在おこっている状況を単に解釈するの

みではなく、変革していくのだ』という志向性を持って業務に従事していった結果だと思えます。院全体をさらに活性化し、ともに進んでいければと思います。そして、この力を地域医療機関の医師をはじめとする医療従事者そして地域の患者さんに還元して行こうと考えています。

当院からのお知らせ

○横須賀市立市民病院公開講座

日時：5 月 31 日（土）

テーマ：パーキンソン病ってどんな病気？

講師：神経内科 科長 平田 順一

時間：13 時～14 時 12 時 40 分開場

場所：横須賀市立市民病院 西棟 7 階 講堂

日時：7 月 19 日（土）

テーマ：骨粗しょう症について

講師：整形外科 診療部長 保田 勉

時間：13 時～14 時 12 時 40 分開場

場所：横須賀市立市民病院 西棟 7 階 講堂

○糖尿病教室開催のご案内

日時：2014 年 7 月 24 日（木）

時間：9：00～14：30

お申し込みご相談は、かかりつけの開業医の先生、または当院かかりつけの場合は受診外来の医師まで。

職員募集！

当院では、助産師・看護師・薬剤師を募集中です。すでに資格をお持ちの方、この春の国家試験で資格取得済みの方、市民病院で一緒に働きませんか。詳しい勤務条件等は、市民病院ホームページをご覧ください。下記問い合わせ先までお気軽にお問い合わせください。

また、助産師・看護師・薬剤師以外の職種の募集状況も、市民病院ホームページをご覧ください。下記問い合わせ先までお気軽にお問い合わせください。

【職員募集の問い合わせ先】

電話 046-856-3136 総務課人事担当

患者さんの権利

- 治療方法を選択することができます。
- 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くため、資料を請求することができます。
- 他の医療機関へ転院を希望するときは、当院での診療情報を求めることができます。
- 自分の診療録（カルテ）の開示を求めることができます。
- 主治医などからの説明に疑問や不安を感じたり納得がいかないときなどは、再度の説明を求めたり、医療相談員に相談することができます。

新規就任医師の挨拶



＜呼吸器内科 科長＞
伊藤 優 医師

呼吸器内科は、昨年4月より入院診療を再開し、本年度は私を含め、2名の新任医師が赴任し、常勤医師5名の体制の下で呼吸器内科専門の診療にあたって参ります。呼吸器内科の診療の特色の一つは、

肺がん、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺炎など命にかかわる身近な病気の割合が比較的多いことが挙げられます。現在、日本の死亡原因の第1位は悪性腫瘍であり、臓器別では肺がんを含む呼吸器悪性腫瘍が最多であり、肺炎が第3位、COPDが第9位となっています（厚生労働省 人口動態統計 2012年）。

これらの病気はいずれも、高齢の方の死亡率が高い傾向にありますので、高齢化社会に突入したわが国では、これらの病気に対する対策が非常に重要となっています。具体的には、まずはCOPDという病気の存在を皆様にもっと知って頂くようすること、肺がんとCOPDの発症に深くかかわっているタバコに対する禁煙対策、そして肺炎予防対策をしっかりと行うことによって、これらの病気の予防、早期発見・治療に重点を置くことが大切と考えています。昨年度から「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動：健康日本21（第2次）」が始まっていますが、この中でもCOPDの認知度の向上は重要課題の一つとして挙げられています。また、日本呼吸器学会では現在、「ストップ肺炎キャンペーン」を実施中です。二番目の特色は、吸入療法が、気管支喘息とCOPDの現在の治療の中心となっていることです。吸入療法は内服薬と違って、基本的な手技を正しく理解し、身につける必要があります。適切な吸入指導が必要不可欠です。地域の薬剤師の方々とともに、吸入指導の体制づくりに取り組むことを考えています。

今年度は、上述の当診療科の特色をふまえて、診療体制の一層の充実化を図り、当地域の呼吸器診療の基幹病院として、皆様に信頼される医療の提供を引き続きおこなって行きたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

当院からのお知らせ

＜ハイケアユニット師長＞
渡辺美恵子

急性期病院である当院では平成26年2月にハイケアユニット（HCU）を開棟しました。

ハイケアユニットは、特定集中治療室の後方病床として集中的な治療を行う治療室です。病床数

8床、患者4人に看護師1人の割合で配置されています。入室される対象患者は、意識障害または昏睡、急性呼吸不全または慢性呼吸不全の急性増悪、急性心不全、急性薬物中毒、ショック、重篤な代謝障害（肝不全・腎不全・重症糖尿病等）、救急蘇生後、その他外傷・破傷風等で重篤な状態とされています。そのような状態で入院される患者さんは、お身体の辛さに加え、心配や不安でいっぱいだと思います。患者・家族の方々に寄り添い、少しでも辛さが軽減でき、治療が適切に受けられるよう、スタッフ一同、日々ケアにあたっています。

ハイケアユニットは東2階に位置し、とても日当たりがよく、有線からヒーリングミュージックや様々な音楽が流れています。ストレスの多い患者さんにとって、少しでも癒しになればと考えています。広く見渡せるオープンフロアなので患者様の状態を近くで見守ることができ、また、患者さんご家族の談笑も時々聞こえ、容態が安定したことに喜びを感じています。今後も皆様のお役に立てるよう、努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

